



中村勝馬 縮緬地友禅黒留袖(当館蔵)



ヴィジティングドレス(茨城県立歴史館蔵)

≡ 特別展 ≡

洋服と和服の 100年

令和7年10月25日(土) → 11月30日(日) 水戸市立博物館 4階・3階展示室

開館時間 ▶ 9時30分～16時45分(入館は16時15分まで) / 休館日 ▶ 月曜日および11月4日(火)・25日(火) ※11月3日(火)・24日(火)は開館

料金 ▶ 一般200円(20名以上の団体は150円)着物の方は団体割引料金など各種割引あり

18歳以下・65歳以上、身体障害者手帳等保持者とその付き添いの方一名、茨城県民の日(11月13日)、ハッピーホリデー(土日祝は18歳以下のお子様一人につき大人一名)は無料

水戸市立博物館 〒310-0062 茨城県水戸市大町3-3-20 TEL.029-226-6521
URL: <https://www.city.mito.lg.jp/site/museum>

博物館HP



公式SNS



特別展 洋服と和服の100年

現在和服は七五三や成人式などの特別な場合を除き、日常では着用されなくなっていますが、80年ほど前までは和服が一般的な衣服でした。現在のように誰もが洋服になったのは、昭和30～50年代になってからです。既製服が大量生産されるのも昭和40年代前後からで、それまでは家庭で手作りしたり、近所の洋裁の出来るミシンを持っている人に頼んで縫ってもらったりしていました。またその頃は、洋裁を習うための裁縫学校も全国で多数開校していました。

水戸市では、明治以降女学校等で広く裁縫教育が行われていました。また戦後は多くの洋裁学校が開かれています。既製服が大量生産される流れの中で、それらの大半はなくなっています。

当覧会では、日本人の衣服がどのように移り変わっていったのか、実物資料や当時の写真を交えてその経緯を追いつつ、併せて戦前から戦後の水戸の学生の服装などを展示します。



①



④



⑤



③



⑥



⑦



⑧



⑨



⑪



⑫



⑬



⑩

関連行事

《着せかえドレスフレームを作ろう》

フレームの中に色々な布地を貼り付けて可愛いドレスを着たトルソーを作ります。

日時▶11月13日[県民の日] ①10:00～11:00 ②11:30～12:30

講師▶茨城県立水戸高等特別支援学校生徒/定員▶各回10名[小学校低学年以上]

材料費▶110円/申込▶10月22日9時から先着順

《蓄音機のレコード鑑賞会》

大正～昭和初期に作られたレコードを手回し蓄音機で聴いてみませんか？

日時▶11月1日[日] ①10:30～11:00 ②14:00～14:30

参加費▶無料[入場券が必要]/会場▶展示室4階

《レトロ着物コーデ研究会》

昭和初期の着物帯や羽織、小物を合わせコーディネートを楽しみます。

日時▶11月9日[日]

①13:30～14:30 ②15:00～16:00

参加費▶無料/会場▶視聴覚室

※マネキンを使った着付けで、参加者の実際の着用はありません

《担当学芸員によるギャラリートーク》

日時▶10月25日[日]・11月23日[日] 両日とも14:00～

参加費▶無料[入場券が必要]

会場▶展示室4階



交通の案内

JRバス：JR水戸駅から大工町方面行きバスで

南町三丁目下車、常陸太田方面へ徒歩10分

クルマ：常磐自動車道水戸インターまたは那珂インターより水戸方面へ20分

常磐自動車道水戸北スマートインターより水戸方面へ10分

駐車場：約20台(無料・中央図書館と共用)

満車の場合は周辺駐車場(有料)をご利用ください